

## 1. 研究テーマ

めまい患者に対する理学療法士による外来前庭リハビリテーションの有効性の検討

## 2. 研究の背景これまでの研究の概要

めまいに対する「前庭リハビリテーション（以下前庭リハ）」の効果は、  
2024年に前庭リハビリテーションガイドラインが発刊されるなど、広く認知され  
始めている。

米国では前庭リハを専門職とする理学療法士が存在し、約1700名が  
前庭リハビリテーション Special Interest Group(SIG)に登録され、多くの医療現場  
でリハビリテーションが実施されている。理学療法士によるサポートは  
ホームエクササイズのアドヒアランスを高める効果があることも報告されており、  
本邦のガイドライン上もエビデンスレベルAとされている。

しかし、本邦における実臨床での医療現場では、理学療法士と耳鼻咽喉科医師  
との連携不足、マンパワー、診療報酬の問題などからも進んでいない。

本研究を通し、理学療法士による外来前庭リハビリテーションの有用性を  
確認し、将来の普及の一助となれればと考える。

### 3. 研究の目的

主要目的：理学療法士による外来前庭リハビリテーションの治療効果の評価

副次目的：各種検査項目のリハビリテーション前後の変動と有用性の検討

### 4. 研究の方法

(1) 選択基準：主たる患者は、発症から3カ月を超えた慢性期の一側末梢前庭

障害患者とする。一側末梢前庭障害の原因疾患として、

前庭神経炎、ハント症候群、聴神経腫瘍術後、間歇期の

メニエール病などの末梢前庭性めまい疾患がある。原因不明の

一側性末梢前庭障害者も対象である。急性期・亜急性期の

末梢前庭障害患者、末梢前庭障害以外のめまい・平衡障害患者

(前庭性片頭痛、持続性知覚性姿勢誘発めまい)、慢性期の

両側末梢前庭障害患者、加齢性前庭障害患者も前庭リハビリ

テーションの対象である。

除外基準：前庭機能の変動しているメニエール病の発作期の患者。

(2) 方法

週1回以上の理学療法士による指導と自宅でのホームエクササイズを

行っていただく。

指導内容は、前庭リハビリテーションガイドライン 2024 に準じて

1.頭部運動訓練、2.バランス訓練、3.歩行訓練、4.慣れを誘導する訓練を中心  
に、患者の全身状態や基礎疾患なども踏まえ、個別メニューを作成し  
行う。最低 2 週間に 1 回耳鼻咽喉科医師による診察も合わせて行う。

### (3) 検討項目

自覚症状の評価 Visual Analog Scale (VAS) Dizziness Handicap  
Inventory (DHI)<sup>4)</sup>、Activities-Specific Balance Confidence Scale (ABC  
scale)<sup>5)</sup>、新潟 PPPD 問診票(Niigata PPPD Questionnaire:NPQ)他覚所見の  
評価 重心動揺検査、ビデオヒットインパルステスト (vHIT)<sup>8)</sup>、自覚的  
視性垂直位、カロリック検査、Timed Up &Go Test (TUG) Functional Gait  
Assessment (FGA) Dynamic Gait Index(DGI) 荷重量 片脚立位 (時間)  
10m 歩行(秒)などによりリハビリ参加前後の改善度を比較する。

### (4) 危険性・副作用等

めまい・嘔気の出現や、立位でのレッスン項目の際の転倒などが予想  
される。無理をさせずにできる範囲でリハビリを進め、注意を要する患者  
には重点的にサポート につくようにする。

## 5. 参考文献

- 1) 一般社団法人 日本めまい平衡医学会 前庭リハビリテーション学会 2024 年版
- 2) 加藤巧、伏木宏彰:米国における前庭系リハビリテーションと理学療法士の関わり、Equilibrium Res76 : 79-83, 2017
- 3) Essery R, Geraghty AW, Kirby S, Yardley L: Predictors of adherence to home-based physical therapies : asystematic review. Disabil Rehabil 39: 519-534, 2017.
- 4) 増田圭奈子、五島史行、藤井正人、國弘幸伸:めまいの間診票(和訳 DizzinessHandicap Inventory)の有用 性の検討。  
Equilibrium Res63: 55- 563, 2004.
- 5) 中山明齡 : めまいと心理検査 、日本めまい平衡医学会編・めまいの検査改訂第 3 版・ pp.138-139, 診断と治療社、東京、2018.
- 6) Yagi C, Morita Y, Kitazawa M, Nonomura ,Y Yamagishi T,Ohshima S, Izumi S, Takahashi K, Horii A : A validated questionnaire to assess the severity of persistent postural-perceptual dizziness (PPPD) : The N-i igata PPPD Questionnaire (NPQ) . Otol Neurotol 40 : e747-e752, 2019.
- 7) 堀井新:論説 PPPD の診断と治療について、耳鼻臨床 113:205-213, 2020.
- 8) 新藤正勝: HIT, VHIT:日本めまい平衡医学会編。めまいの検査改訂第 3 版・ p.66-73, 診断と治療社東京、2018.

9) 吉田友美, 山本昌彦、伊 八次:直立・信崎検査/歩行速度、日本めまい平衡

医学会編。めまいの検査改訂第3版・p.6- 1, 診断と治療社, 東京、2018.

10) 岩崎真一:重心動揺検査、日本めまい平衡医学会編・めまいの検査改訂

第3版・p.22- 23、診断と治療社、東京、2018.

## 6. 研究期間

2024年9月19日～2028年3月31日

## 7. 研究責任者

耳鼻咽喉科 平岡 晃太